

本当の幸い

私たちが一般的に普通に幸せだと思えることは、良い大学を卒業し、願っている会社に就職し、できれば高収入で、家を建てて住むこと。良い妻、良い夫に出会い、幸せな家庭を築くこと。人に認められること、豊かに暮らすこと、長生きすること、命にかかわる病気に罹らないこと。病気になっても治り、死ぬまで元気いること等ではないでしょうか。

誰でもこうだったらいいと思うでしょうし、また御旨なら神様は祈りに答えて下さるでしょう。しかし気を付けなければならないのは、これらは「幸い」そのものではなく、「幸いの結果」であることです。「幸いの結果」ばかりを求めていると、何故か次第に心が失われてしまいます。上手くいかない事や、人間関係に綻びが出てしまいます。

それは、私たちを創られた神様ご自身が「幸いの本質」であるからです。イエス様は「幸いの本質」である神様の喜ばれる「本当に幸いな人」への近道を教えて下さいます。

聖書の学び

I、イエス様が言われる「幸いな人」

(マタイ5：3～10節)

1、神様に喜ばれる「幸いな人」とはどのような人でしょうか。

- *「心の貧しい者」(3節)：自分自身の無力を知り、ただ神様だけを待ち望む者。
- *「悲しむ者」(4節)：自分の罪を嘆きながら、悔い改める者。
- *「義に飢え渴いていた者」(6節)：神の前に義と認められ、救われたいと渴望する者。
- *「あわれみ深い者」(7節)：7度を70倍するまで赦す者。貧しい者を顧みる者。
- *「心のきよい者」(8節)：神に開け渡し、聖なる神が共におられる確信を持つ者。
- *「義のために迫害されている者」(10節)：苦難に負けず、神の義を信じ続ける者。

2、上記のような人に与えられる幸いは、何でしょうか？

- ①「心の貧しい者」：3節・・・
- ②「悲しむ者」：4節・・・
- ③「柔和な者」：5節
- ④「義に飢え渴いていた者」：6節・・・
- ⑤「あわれみ深い者」：7節・・・

⑥「心のきよい者」：8節・・・

⑦「平和をつくる者」：9節・・・

⑧「義のために迫害されている者」：10節・・・

Ⅱ、恵まれたクリスチャンの実例

「神様だけに認められるのが幸い」と思って生きた、ある教会の婦人の証し

彼女はキリストを信じてから、ただ神様に喜ばれる者になりたいと強く思うようになりました。クリスチャンになって祝福されましたが、豊かさではなく、自分の家庭が神の栄光をさえぎる遮るものにならないように、祈るようになりました。

彼女は自分の小さな過ちに気づくと直ぐに悲しみ、悔い改めました。飢え渴いて聖会に出席し、みことば一つ一つを親鳥の口からえさ餌を受け取るヒナのように受け取りました。

彼女は教会の1人1人のために、毎日名前を挙げて祈りました。教会内に問題が起きると、分派分裂を引き起こそうとする人々の前に、跪いて、神様に祈るようにと訴えました。

彼女はいつも柔和で、一日も彼女の顔にかげ陰りがあったことはありません。その姿を見て、誰もが自分を愛してくれた母を思い浮かべるほどでした。

彼女はイエス様のように、助けを求めて来る人々をただで帰らせることをしませんでした。しかし教会生活において、彼女は聖書からはずれる部分は決して受け入れませんでした。

その後、彼女の夫とその子どもたちは素晴らしい信仰をもち、社会的にも成功を納めました。結局8つの幸いをいただくようになったのです。

Ⅲ、ま と め

1) イエス様が話された幸いは、実は、心の思いの中にあります。

柔和であること自体が幸いであり、人の前ではなく神様に義と認められることに飢え渴くこと自体が幸いであり、兄弟を愛して、憐れむこと自体が幸いであり、身近な人との平和をつくること自体が幸いであり、反対にあっても義のために生きること自体が幸いなのです。

2) 今日の学びで、幸いを得るためにどうしたら良いと考えましたか。(マタイ6:33)

3) 罪に対して悲しみ、心を開いて主の前に悔い改めるなら、主はこうすると言われますか。

(黙示3:19～20)